9-3

主題 事故防止対応委員会の取り組み

リスクマネジメント

副題 転倒・転落事故による骨折ゼロを目指して

研究期間 12ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム 弘済園

発表者：ケアワーカー 遠山 真一

アドバイザー：

共同研究者：ケアワーカー 高原 俊作 ケアワーカー 原島 明子

電話 0422-47-8965

メール

FAX 0422-41-1783

URL

<http://www.kosaien.or.jp/>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

社会福祉法人東京弘済園は、高齢者福祉事業を行うため、昭和30年に財団法人鉄道弘済会によって三鷹市に創立されました。以降、高齢者福祉の各分野の事業に先駆的に取り組んでおります。また、平成20年からは保育園も併設し、園庭では、異世代交流も行われております。特別養護老人ホームは、定員100名、ショートステイ10名です。

《研究前の状況と課題》

入所する利用者の傾向が認知症を伴う多動の方が多く事故に繋がるリスクが高い。リスクを少しでも回避する為、離床センサー類を活用する事により、転倒・転落事故の軽減、効果がどれだけあるのか、事故防止対応委員会として統計を取り把握したい。

- ・転倒・転落事故の多い時間帯の把握。
- ・センサーの利用により事故を未然に防げる。
- ・センサーのコールに翻弄されない台数は、何台くらいが妥当か？

《研究の目標と期待する成果》

- ・センサーを使用する事により転倒・転落事故を未然に防げる。
- ・事故件数は減少できる。
- ・時間別の統計をとることで、事故多発時間帯を把握し、未然に防ぐことができる。
- ・時間帯の把握ができることでこまめな巡回を行うことができる。
- ・再発防止ミーティングの充実を図る。
- ・統計をとる事により職員の意識向上を図る。

《具体的な取り組みの内容》

- 事故防止対応委員会による全職員に対しての勉強会。
- 毎月統計をとり分析する。
- 再発防止ミーティングの充実。
- フロアを越えた協力体制。
- 家族会（年2回）で事故件数の報告を行い全ての情報開示をしている。
- 家族会にて事故回避に向けたセンサーの種類・使い方を説明した。

《取り組みの結果と評価》

- 夜勤体制の見直し（夜勤者の増員）。
- 転倒・転落事故による骨折ゼロ。
- 4種類（離床、サイド、マット、座位式）のセンサーの使い分けができるようになった。
- 経過観察シートの活用により、過度なセンサーの使用が回避できた。
- 事故に繋がる可能性があるヒヤリハットも、ご家族に必ず連絡をすることで、理解を深めている。
- 勉強会・再発防止ミーティングをすることにより職員全体の事故に対する意識向上に繋がった。

《まとめ》

センサーコールの台数は、利用者全体の1割が当園では適当な台数と判断した。今後も事故防止対応委員を中心に骨折“ゼロ”を目指し再発防止のミーティングを充実し安心・安全・快適な施設を目指したい。

《提案と発信》

どこの特別養護老人ホームでも、事故防止にむけて対策をとっているが、ゼロにはならない。

職員は腰痛と戦いながら介護度の高い利用者のお世話に日夜奮闘し、転倒、転落等の事故のないよう対策をたてている。ケアカンファレンスを利用し、ご家族にも理解と協力を求め、リスクマネジメントに努めている。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。